

黄鐘調・盤渉調とは

黄鐘調・盤渉調とは、雅楽の「六調子」の一種です。調子とは、洋楽で言う「ハ長調」「ト長調」の「調」のようなものです。

黄鐘調は「黄鐘」と呼ばれる音を、盤渉調は「盤渉」と呼ばれる音を基調とする旋律です。鐘の音の場合は旋律とはいきませんが、両方聞いてみると、音色の違いがわかるでしょう。

なお、以上の3つの鐘堂では、大晦日に、除夜の鐘をつくことができます。

17) 太子殿・太子奥殿

御本尊・・・南無仏太子二歳像など

太子殿（たいしでん）

と太子奥殿（たいしおくでん）は、中心伽藍の東側に位置しています。

太子殿（前殿）は、聖徳太子を祀るお堂で、正式名称は「聖霊院（しょうりょういん）」と言います。



1954年（昭和29年）

建立の入母屋造の建物で、南無仏太子二歳像や、秘仏の太子十六歳像（太子孝養像）、四天王像を祀ります。

太子殿と渡り廊下で繋がる太子奥殿は、1979年（昭和54年）建立で、壁面が完全に円形となっているのが特徴の建物です。

内部には、1月22日のみ公開される太子四十九歳像（太子摂政像）が祀られています。

毎年2月22日の「太子二歳まいり」の祈祷には、多くのご家族が参列し、知恵が授けられるよう、お子さんの頭に宝印をもらいます。

なお、中心伽藍が鉄筋コンクリート造なのに対し、太子殿・太子奥殿とその周辺の建物は木造建築となっています。

太子奥殿の本尊「聖徳太子四十九歳摂政像」

摂政像とは、聖徳太子は推古天皇30年2月22日に49歳（50歳という説も）でお亡くなりになりましたが、いまこの現在でもバリバリとお仕事をされている様子をこの摂政像によって表現しているのです。